

# トヨタ、日産に技術提供

## 06年めどハイブリッド車で

本格的な提携は初めて。

### ―関連⑥面

トヨタ自動車と日産自動車は二日、電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッド車の技術で提携することで合意した、と発表した。日産が二〇〇六年を

めどに米国で発売する自動車に、トヨタの最新のハイブリッドシステムを搭載する。長年のライバルであるトヨタ、日産の

ハイブリッド技術で先行するトヨタは昨春、他社への技術提供に応じる考えを表明し、日産側と交渉を行ってきた。

合意では、トヨタがハイブリッド車「プリウス」の技術をベースにした最新のハイブリッド技術を提供。日産はガソリ

ンエンジン部分や車体部分などを開発する。技術の供与期間は十年以上に及ぶ見通しで、日産は〇六年からの五年間で、米国市場で十万台程度のハイブリッド車販売を計画している。

トヨタは一九九七年、世界初のハイブリッド車「プリウス」を発売。その後「エスティマ」

「クラウン」などでハイブリッド車種を増やし、累計で約十二万台を販売している。日産との提携で、市場の拡大とコストの削減を目指す。

一方の日産は二〇〇〇年に「ティノーハイブリッド」を限定販売したが、出遅れている。環境対応は自動車メーカーの生き残りの鍵を握るた

め、トヨタとの提携ではこの回数を図る。

ハイブリッド車ではこの他、ホンダが「シビックハイブリッド」を累計約六千百台、二人乗りの「インサイト」を約一万二千台販売している。

ハイブリッド車 ガソリンエンジンと電気モーターを併用して走る自動車。燃費の悪い低速時にはモーター、中・高速時にはエンジンで走行する。減速時はエンジンが止まる一方、車輪の回転力を利用して発電し、バッテリーに充電する。従来のエンジン車よりも燃費が向上し、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を削減できるとともに、排出ガスも浄化される。